

2017.2月号
Ogi city



おぎ

市議会だより

萬丈人間傀儡子
棚頭日、彼在昔
言非言是、何物
端的看目晚相照
藝長十七歳言 壬寅夏五日
前南禅園筆 閑室元信自賛

ニュース / 12月議会

- 年頭のあいさつ
..... P 2
- 平成28年度一般会計・特別会計
補正予算のなかみ、主な事業、
主な議案等
..... P 3~4
- 会議結果、議案等の賛否一覧
..... P 5
- 常任委員会報告
..... P 6
- 一般質問
..... P 7~13
- 議会改革特別委員会報告
..... P 13
- 常任委員会視察研修報告
..... P 14~15
- 議員活動あれこれ、
行政視察受入一覧、
表紙の紹介、お知らせ
..... P 16



表紙

かんしつげんきつぞう
閑室元信像

年頭のあいさつ



小城市議会 議長 平野 泰造

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては夢と希望に満ちた新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

また、平素は市議会に対しご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、小城市におきましては、昨年「第2次総合計画」を作成し、長期的な視野に立って、小城市が目指すまちづくりの方向性や市の基本的な取り組みを定めたところです。私たち市議会としましても、この総合計画のもとに更なる充実したまちづくりに取り組む所存でございます。

また、市議会におきましては「小城市議会基本条例」に掲げる理念のもと、市議会議員の定数について協議すべく特別委員会を立ち上げて協議を重ね、昨年の12月定例会において、市の財政状況と近隣自治体の現状を考慮し、次回の市議会議員選挙より現在の定数「22人」から2人削減して「20人」とすることを議員発議で議会に諮り、決定をいたしたところであります。議員定数は2人減りますが、市民の皆様の声を市政に反映するよう、これまでも増して邁進していく所存でございます。

最後に、財政の課題も含め前途は多難ではありますが、議会は議会としての役割を果たすべく、議員一丸となって市民の皆様のご期待に添えるよう努力を重ねてまいります。

今後ともご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。また、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成28年度 一般会計・特別会計補正予算を承認

歳入の主なものは、市税および各種事業に伴う国・県支出金、分担金および負担金、市債の増のほか、基金利子に伴う財産収入の増、財源調整として財政調整基金繰入金の減などである。

歳出の主なものは、生活保護扶助費、介護給付費・訓練等給付費支給事業、社会資本整備総合交付金事業(橋りょう補修)、急傾斜地崩壊防止事業などを計上するものである。

平成28年度 12月補正予算の状況

一般会計・特別会計

会計区分	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計(第6号)	221億8,473万円	2億0,373万円	223億8,846万円
特別会計	91億7,842万円	△176万円	91億7,666万円
授産場特別会計(第2号)	2,516万円	60万円	2,576万円
下水道特別会計(第3号)	23億8,377万円	△236万円	23億8,140万円
国民健康保険特別会計(第3号)	62億4,524万円	0	62億4,524万円

※万円未満は切り捨てています。

※国民健康保険特別会計(第3号)は、国庫補助金の確定に伴う財源振替を行うものです。

< 補正予算の主なもの >

事業名	補正予算額	事業名	補正予算額
道路橋りょう災害復旧事業	226万円	急傾斜地崩壊防止事業	1,320万円

平成28年6月の梅雨前線豪雨により、小城市本山区天山社の斜面が崩壊し、神社施設が被災したため、斜面の復旧工事を行い安全対策を図る。

1,320万円

急傾斜地崩壊防止事業

小城市と佐賀市を結ぶ主要な市道(三ヶ島・大和線)に架かる三ヶ島2号橋は32年経過し、劣化が進んでいた。今回、ひび割れの補修等を行い、橋の安全確保と長寿命化を図る。

5,154万円

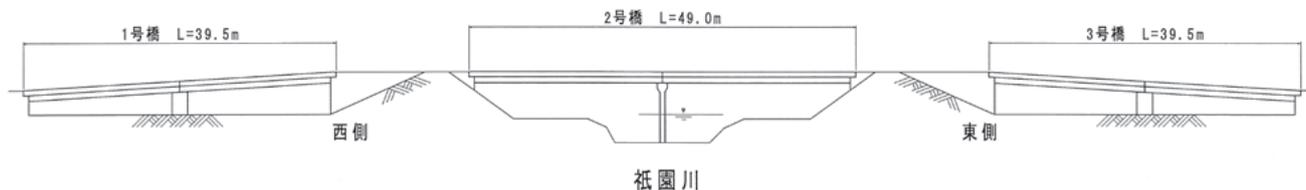
社会資本整備総合交付金事業



主な事業



▲補修される三ヶ島2号橋



主な議案

(発議第2号)

小城市議会議員定数条例の一部を改正する条例

議員定数22→20へ

議会改革特別委員会での議論してきた議員定数について、2人を削減する議員発議を行い、賛成多数で議決した。次期一般選挙から議員定数は20人となる。

(議案第82号)

小城市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例

小中学生の医療費に対し、償還払い方式による助成を行っているが、これを現物支給方式に変更するものである。これにより、29年4月から保護者の仮払いの負担がなくなる。

※現物給付：受給資格証を提示することで、医療機関窓口での保護者負担額が一定額までとなる方式。



▲旧芦刈庁舎跡に完成が待たれる「あしかりこども園」

※償還払い：医療機関窓口で医療費の一部負担額を支払った後、市への申請により保護者負担額を除いた医療費が返還される方式。

(議案第83号)

小城市立学校設置条例の一部を改正する条例

市立芦刈幼稚園が民営化され、4月より「あしかりこども園」として運

営されることに伴う条例の改正である。運営は、芦刈保育園を運営している芦刈福祉会が行い、定員は幼稚園70名、保育園110名となる。

意見書

(第5号)

地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書 (可決)

近年においては地方議員の専門化が進む状況にある。一方、市町村議員への立候補者が減少し、無投票当選の増加など住民の関心の低下や地方議員のなり手不足が深刻となっている。議員の年金制度を時代にふさわしいものにするのが新たな人材確保につながるとして、厚生年金加入の法整備を早急に実現するよう全会一致で採択した。

(第6号)

参議院議員選挙制度における合区の解消に関する意見書 (可決)

戦後参議院は一貫して都道府県単位で代表を選出してきた。一票の格差を「違憲状態」とする最高裁判所の判例を踏まえた選挙制度改革により、平成28年7月に県をまた

いでの合区による選挙が実施された。合区は緊急避難措置として公職選挙法の抜本的見直しが規定されており、合区を早急に解消する措置を求め、賛成多数で採択した。

討 論

反対討論

現状では合区以外に一票の格差を是正する手段はなく、また、人口減少社会においては参議院も広域の代表とするべきである。

賛成討論

合区により投票意欲が低下しており、また、都道府県の意見が国政に届かなくなるため、合区を解消すべきである。



会 議 結 果

平成28年 第4回 小城市議会定例会 議決結果 (12月20日)

議案番号	件 名	委員会付託	結 果
議案第73号	小城市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部を改正する条例	—	可決 (全員賛成)
議案第74号	小城市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	—	可決 (全員賛成)
議案第75号	平成28年度小城市一般会計補正予算 (第5号)	—	可決 (全員賛成)
議案第76号	平成28年度小城市下水道特別会計補正予算 (第2号)	—	可決 (全員賛成)
議案第77号	平成28年度小城市水道事業会計補正予算 (第2号)	—	可決 (全員賛成)
議案第78号	平成28年度小城市病院事業会計補正予算 (第2号)	—	可決 (全員賛成)
議案第79号	小城市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例	総	可決 (全員賛成)
議案第80号	小城市国民健康保険税条例の一部を改正する条例	総	可決 (全員賛成)
議案第81号	小城市ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部を改正する条例	文	可決 (全員賛成)
議案第82号	小城市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	文	可決 (全員賛成)
議案第83号	小城市立学校設置条例の一部を改正する条例	文	可決 (全員賛成)
議案第84号	小城市道路線の認定について	産	可決 (全員賛成)
議案第85号	平成28年度小城市一般会計補正予算 (第6号)	総・文・産	可決 (全員賛成)
議案第87号	平成28年度小城市下水道特別会計補正予算 (第3号)	産	可決 (全員賛成)
議案第88号	平成28年度小城市国民健康保険特別会計補正予算 (第3号)	総	可決 (全員賛成)
議案第89号	平成28年度小城市授産場特別会計補正予算 (第2号)	文	可決 (全員賛成)
発議第2号	小城市議会議員定数条例の一部を改正する条例	—	可決 (賛成20 : 反対1)
意見書第5号	地方議会議員の厚生年金への加入を求める意見書	—	可決 (全員賛成)
意見書第6号	参議院議員選挙制度における合区の解消に関する意見書	—	可決 (賛成19 : 反対2)

付託委員会名 総…総務 文…文教厚生 産…産業建設 —…委員会付託なし

※議案第86号は予算様式不備のため撤回され、第89号で再提出。

議案等の賛否一覧 (全会一致以外のみ掲載)

平野泰造議長は採決には加わりません

議案番号	議員名	松並	永瀧	西	光岡	富永	諸泉	樋渡	中島	中島	江島	深川	市丸	岸川	上瀧	香月	合瀬	松尾	堤	下村	北島	大坪
		陽一	和正	正博	実	正樹	定次	邦美	正之	正樹	佐知子	高志	典夫	英樹	政登	工三	健一	義幸	克彦	仁司	文孝	徳廣
発議第2号	小城市議会議員定数条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
意見書第6号	参議院議員選挙制度における合区の解消に関する意見書	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対

常任委員会報告

12月9日の本会議において、各常任委員会に付託された議案審査は、慎重な審査の結果、全議案について可決した。

総務常任委員会 (12月13日)

問 議案第79号「小城市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例」について要介護者の定義の中で配偶者、父母、子、配偶者の父母その他規則で定める者となるが、同居要件があるのか。また、日常生活を営むのに支障があるものとはどういう状況を指すのか。

答 父母、子及び配偶者の父母は同居に関わらず対象となり、祖父母、兄弟姉妹及び孫が同居要件がある。

日常生活を営む上で支障がある者とは食事、排せつや入浴あるいは歩行等が困難な状態で、一人で生活するうえで何らかの困難がある者をいう。

問 議案第85号「小城市一般会計補正予算(第6号)」で軽自動車税の当初予算編成時の台数と今回の補正予算の時点での台数の違いは。

答 主な内容は、新規登録から13年を経過した重課税の対象となる軽自動車について、当初予算作成の時には最初に登録された年度の情報を市では管理していなかったため、従来の税額で算定を行っており、その後、重課税の算定に必要な情報を国からもらうことができ、その分を踏まえて今回補正を行った。自家用乗用で2,091台、自家用貨物で1,700台が今回新たに重課税の対象となっている。

※重課税とは…経年重課

グリーン化(環境への負荷の低減に資するための施策)を進める観点から、最初の新規検査から13年を経過した軽四輪車等について、平成28年度分から、当該車両に係る軽自動車税について概ね20%税率が上乘せされた。

文教厚生常任委員会 (12月15日)

問 小城市子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例において、この事業の市民への啓発方法は。

答 全助成対象者へ制度改正の周知と、未登録者の世帯は申請手続きの案内を行う。登録済みの世帯でも健康保険の変更の有無を確認して、3月に受給資格証を全対象者に発送する。

問 平成28年度小城市一般会計補正予算(第6号)の介護給付費・訓練等給付費支給事業について、当初予算の段階で把握できなかったのか。

答 当初予算でも5千万円増額していたが、放課後等デイサービスの事業所が2件だったのが、平成28年度に新たに5事業所ができて、利用者が大幅に増加したことが大きな原因である。

産業建設常任委員会 (12月14日)

問 議案第84号「小城市道路線の認定について」芦刈町中村の有明海沿岸道路側道は、延長が167・1mということだが幅員はいくらか。また、県の道路、再編計画に伴うものなのか。道路の構造、舗装構成はどうか。

答 幅員は5m、県の道路再編計画とは関係ない。舗装構成については舗装が5cm、粒調砕石が10cm、クラッシュランが15cmとなっている。

問 議案第87号「平成28年度小城市下水道特別会計補正予算(第3号)」の集団整備事業の汚泥処理について、どこの処理区の汚泥を集めているのか。また、年何回ぐらい集めてどのような方法で処理されているのか。

答 小城市内の処理場で清水以外の施設は集団整備事業で行っている。汚泥は全ての施設で毎月処理している。集落排水事業での汚泥は一般廃棄物として有田町の業者に搬出し、公共下水道施設の三日月、牛津、芦刈分は産業廃棄物として多久市の業者に搬出している。



▲就労訓練風景



▲汚泥脱水中の移動処理車

▼進出企業による市への財政効果の見込み

企業名	地元雇用人数 (計画)	市民税 (年間)
(株)友桝飲料	42名	3 社合計 3,814万円
オールセーフ(株)	15名	
(株)鶴沢鉄工	12名	
合計	69名	

※地元雇用人数は平成36年4月時点の計画人数
※市民税は法人および個人の市民税



松並 陽一

企業誘致のための新たな 整地は

市長 既存の土地や空き地への誘致を促進したい

松並 これまでの企業誘致の取り組みの成果は。

市長 23年度に完成した小城虫の郷ファクトリーパークは、今年度までに

(株)友桝飲料、オールセーフ(株)、(株)鶴沢鉄工所の3社に販売し、完売した。

松並 反対に、小城市内から撤退した企業とその原因は。

産業部長 J A ビバレッジ、三菱マテリアル、ホームワイド等であり、事業の合理化や売上の変化によるものと推測される。

松並 今後スマートICが他の自治体でも整備されると、小城市の優位性が薄れるため、スピード感をもって企業誘致を進めるべきでは。

産業部長 整地の予定はないが、空き家や空き地への誘致を推進する。

子どもの学力向上

松並 中学生の学力や入試の現況、課題は。

教育長 28年度4月全国学習状況調査では、国語と数学は県平均、全国平均を下回っているが、直近の志望校への合格率は90%を超え、県内でも高い。思考力・判断力・表現力を伸ばすことが課題である。



岸川 英樹

まちづくり、総合計画 戦略とは

市長 一次計画の振り返りと市民の思いを反映する

岸川 一次計画から二次の総合計画について、施策の見直し、修正は、どのように策定をしたのか。

市長 毎年、施策の評価や事務事業優先度評価を行い、課題を抽出して、施策の目的設定や目標値設定に反映し、第2次総合計画につなげている。策定にはまちづくり市民会議を8回開催し、市の将来に向けた思いを聞き基本構想の原案を策定。

岸川 農林水産業の支援事業(暗渠排水事業)について市全体では、50%ぐらいいしか完了してないが事業の100%完了まで、支援を続けるべきと

思うが。

産業部長 来年度から国の補助が半減するが、今後も県と連携を図りながら対策を講じていきたい。

市長 暗渠の補助率の見直しで、最初の人と後に事業した人に格差が出てはいけない。地域農業が発展するためにも整備はぜひ必要と思う。しっかりと取り組んでいきたい。



▲暗渠排水事業

その他の質問

○人口減少への歯止め、移住、定住対策について



諸泉 定次

市民病院の今後あるべき方向性は

市長 小城と多久の公立病院が協力する方向で

諸泉 3月に出された佐賀県地域医療構想を受けて小城市民病院の対応は、

病院事業管理者 今後の病院経営方針としては、3つの選択肢。1つは単独経営。これは縮小し充分な医療が果たせない。

諸泉 市長の基本的な考え方は、

2番目のネットワーク化は、核となる病院に機能が集中して、地域内に格

市長 国は自治体病院の再編・ネットワークを推奨している。小城市民病



▲市民病院のあり方は市民の関心事

差が生じる。3番目の再編統合はメリットを生かして病床機能の充実が可能。また再編統合には国の手厚い支援がある。

院は急性期病院だが、これからは経営的に成り立たない。再編・ネットワークについて議論し、改革ガイドプランに結びつきたい。また、小城・多久とも築30数年経過し建てかえの時期。この地域の医療を提供するためには、単独でなく両者が協力する必要があるとの研究会の方向性も示されている。議会の意見も聞きながら話し合いを進めたい。

その他の質問

○自主防災組織の拡大と課題は

○小城市観光事業のあり方は



上瀧 政登

県立高校の再編計画

教育長 生徒数の減に伴い実施計画はある

上瀧 生徒数の減により県立高校の再編計画があると聞くが、佐賀県教育委員会の方針を示して欲しい。市内には小城高・牛津高があるが影響があるのか。

教育長 県立高校再編整備実施計画に基づき準備が進められている。市内2校については存続し直

接的な影響はないが、杵島地区、鹿島地区、唐津・伊万里地区には計画がある。

犯罪被害者を支援する為の条例制定を

上瀧 犯罪被害にあわれた方々に地方公共団体は支援する必要があると思うが県内の状況と小城市の対応は。

市長 国では平成17年に犯罪被害者等基本法が施行され被害者に対して給付金を支給している。県内7市町では条例ができている。小城市でも条例を制定し十分に対応する。



▲再編が予定されている杵島商業高等学校



西 正博

多発する災害に対して 市の考えは

市長 国が推進する被災者支援シ
テムの導入を検討する

西 日本の各地で地
震、土砂災害、ゲリラ豪
雨、水害など色々な災害
が発生している。災害の
対策についても、反省や
課題から改善、進化して
いると認識する。内閣府
が全国の地方自治体に導
入を推進する被災者支援
システムは、佐賀県内
は7自治体が導入してい
ると聞いてい
る。また、国
のサポートセ
ンターでは、
29年1月末の
申請が切で、
自治体の負担
なしで、講師
派遣等のサ
ポートを行っ
ているとのこ

とで、小城市においても、
不測の事態が起こる前
に、前向きに検討を提言
したい。

市長 災害発生後に、被
災者支援業務を支援し、
導入時の初期費用も安く
済むとのこと、この国
のシステムのサイトに接
触できるよう、インス



▲被災者支援システムの概要
(システム機構のHPより)

トールキーを申請したい
と考える。また、情報シ
ステム機構では、導入を
検討している自治体に無
償で講師派遣を行ってい
ることも確認した。操作
研修の説明会や講演につ
いても希望していきたい
と考えている。なお、運
用した場合には、基幹シ
ステムなどの連携を要
するので各課と慎重な協
議は行う。

その他の質問

○情報伝達手段としての
CODEXの導入につ
いて



松尾 義幸

ドローンで天山山系溪流 の調査を

市長 活用の方法を庁内で十分検討
する余地がある

松尾 ①防災行政無線の
聞き取りにくい地域とそ
の対策は。
②埼玉県戸田市のスマー
トフォンアプリ「toc
oぷり」が参考になるの
では。

市長 ②防災を含め市の
いろんな情報が一つの小
城市のアプリとして確立
されればと思うが、まだ
研究段階である。

定電話、携帯電話へ音声
で、防災行政無線の放送
内容を配信できるシステ
ムである。929名が登
録。ファックスで送信す
ることも可能で77件の登
録がある。
上部の状況や人がはいる
にくい危険個所の事前調
査など非常に有効と思
う。市内にもドローンを
活用されている企業もあ
るので連携し、庁内で十
分検討する余地がある。

松尾 ③ド
ローンの活用
による天山山
系溪流の現況
調査を行うこ
と。

市長 ③ド
ローンを使っ
ての具体的調
査の方策は、
まだ確立して
いない。溪流
の砂防ダムの

防災対策課長 ①メー
カーと防災対策課で現地
で確認し、音量の調整や
スピーカーの向きなど調
整した。10月から新しい
災害情報配信サービスを
導入した。防災メールに
加え、登録いただいた固



▲流木防止のダムを建設(平成24年2月、小城町荒谷の溪流)

りたい方は、会議録が各町図書館にありますのでご覧下さい。
 議録の設置及びホームページ掲載は2月末の予定です。



中島 正樹

都市下水路の課題対策は どうする

市長 計画的な維持管理計画を立てていく

中島 都市下水路（小城町の中川・西小路、牛津町の若江）の現状と課題は。

完了していない状況であり、今後、県道工事を行ったりするのでそういう事業にあわせて予算を計上していく考えである。

その他の質問

○ふるさと納税について

市長 中川、西小路の都市下水路については、整備後50年以上の年数が経過し劣化等が進み、必要な修繕箇所が出て来た際には随時補修工事を行っている。

課題として今後の維持管理、安全確保も踏まえ緊急的に整備していく部分、長寿命化策等も検討しながら計画的な整備計画も立てていく必要がある。

建設部長 若江都市下水路については浚渫工事が



▲経年劣化等が進んだ小城町の都市下水路



富永 正樹

名誉市民認定の条例制定の考えは

市長 名誉市民についての議論をやる必要がある

富永 市が収蔵している中林梧竹作品の多くを寄贈し、また今年、数的には日本一の千種類前後の中国の拓本の資料を寄託された方に、小城市名誉市民の認定は考えられないか。



▲寄託されている梧竹堂法帖

市長 小城の文化振興にも大変寄与されている方で、感謝している。名誉市民についての議論を庁内でやらないとこの話は進まないと思っている。

筆文字を通じた地方創生への挑戦について

富永 日本一の梧竹さんを生んだ小城市ならではの筆文字楽習に子どもたちを取り組ませてはどうか。

教育長 構想としては、言語活動、俳句、感性、そういうものと書道とドッキング、リンクさせて、子どもたちに作品としてつくってもらおうと非常にいいと思っている。

清水にある清流ふれあい公園について

富永 清流ふれあい公園に通じる第二滝見橋の欄干改修は可能か。

産業部長 現在の欄干は危険な形であると認識している。転落防止柵の設置は、地元からの要望等があれば交通安全施設の整備事業で対応できると考えている。



江島佐知子

高齢者にやさしい まちづくりを

市長

行政や専門職だけでなく
地域全体で取り組む

江島 高齢者が安心安全に暮らせる小城市づくりを考えることが市民全体の暮らしやすさに繋がると思うが、

① 高齢化の現状と今後の見通しは。

② 高齢者が住み慣れた地域で可能な限り自分らしい暮らしを続けることができるような地域包括ケアシステムの構築が必要だが、取り組みの現状と課題は。

③ 高齢者の交通事故が増えるなか、安全な移動手段の確保について。

市長 ① 平成28年10月末で高齢化率26・2%、35年には31%と増加が推計されている。要介護認定

者も増加が予測される。

また、農村部だけでなく、市街地でも高齢化率が高いところもある。

② 北部、南部の地域包括支援センターで1、2カ月に1回地域ケア会議を開催。医師、歯科医師、

③ 循環バス、巡回バスを整備し、公共施設、病院、買い物施設等を結んでいて、年間約1万6千人の利用があるが、今後高齢者の免許返納が推進するような取り組みも検討する。

防、郵便局、司法書士、看護師、民生委員、市担当等で構成。声かけ、見守り、交流の場、買い物支援、送迎サービスの、家事支援等のニーズがあがっている。在宅医療・介護の連携、生活支援、認知症対策等を開始している。



▲生き生き100歳体操



香月チエミ

安心して働ける 職場づくりを

市長

職員の精神衛生について
産業医が対応している

香月 超過勤務などによる過労死が全国的に問題になっている。市職員の内訳は。

① 疾病休業の内訳は。

② 精神疾患による休職と勤務問題の関連性は。

③ 過労死ラインの目安となる月80時間以上の超過勤務をした職員は。また、発生する原因は。

④ 市民への接遇について職員の疲労やメンタル不調の影響はないか。

市長

① 30日以上休職している職員数は、2014年から16年まで精神疾患で延べ18人。身体疾患で延べ14人。公務中のケガ等による公務災害認定は延べ3件。

② 関係性をどうつなげるかは非常に難しい判断となり、今のところ因果関係は把握していない。

③ 本年度9月までで39人。そのうち100時間を超えた14人は、産業界によるストレスチェックを義務付けている。税務課の確定申告やその後の課税処理、選挙事務など時期的なものや、防災対策課の災害、防災対応等突発的なものがある。

④ 所属内における管理監督職が、職員の健康状態に配慮しながら、市民へ真摯に対

② 関係性をどうつなげるかは非常に難しい判断となり、今のところ因果関係は把握していない。

応じていきたい。

その他の質問

○ 「子育てしながら働くことへの支援」等について



▲庁舎職員の執務風景



下村 仁司

祇園川の取水口、取水堰の管理はどこか

市長

北郷水利組合等が管理

下村 祇園川の多くの取水口が土砂で埋まり、街中水路や小城公園の池まで土砂が流入している。

産業部長 堰の上下流の浚渫は県にお願いし、取水口は地元で願う。

商工観光課長 観光面から公園の水の浄化に貴重な松尾地区からの水の流入を活用したい。

市民部長 市内環境の保全のために、適切な管理をお願いしたい。

下村 芦刈の幹線農業用水路の水質（pH）が高すぎるのはなぜか。

産業部長 幹線水路のpHが8.5未満であるが、幹線水路の管理者である佐賀土地改良区等と協議して改善に向けていきたい。



▲土砂で埋まり機能をなくした北郷取水堰（小城町大日）



永瀨 和正

入札制度の改善は

市長

検証し、見直す必要がある

永瀨 ①入札の最低制限価格（現行8千万円以上）や条件付一般競争入札（現行1億円以上）の基準となる価格が県内他市と比べて高い。価格を見直す考えは。

②入札監視委員会（第三者委員会）設置の考えは。

市長 ①最低制限価格は見直す。条件付一般競争入札は検証する。

②関係機関と協議したい。

交流プラザは1,700万円高く契約したのでは

永瀨 交流プラザは予算額より予定価格が2%高かったため、建築工事は予算額より17,706

千円高く落札し、契約している。予定価格は予算の範囲内で算定しなければならぬ。予算内に適正な予定価格を算定していれば17,706千円損失を被ることはなかった。電気・機械設備工事も予定価格は予算額を超えてはいたが、落札率が85%であったので、落札額は予算額を超えていない。市長の認識は。

市長 建築・電気・機械設備の3工事は予定価格が予算額を超えていたことについて大変問題があったと深く受けとめている。一連の事務手続きの不適切な部分はあったが、市に損失を与えたと

まちなか市民交流プラザ（ゆめぶらっと小城）の入札結果 (単位：円、%)

工種	予算 A	予定価格 B	落札価格(契約額) C	落札率 C/B	A - C
建築	1,380,894,000	1,409,253,120	1,398,600,000	99.24	△17,706,000
電気	357,724,000	365,070,240	310,309,000	85.00	47,415,000
機械設備	289,382,000	295,324,920	251,026,000	85.00	38,356,000
計	2,028,000,000	2,069,648,280	1,959,935,000	94.70	68,065,000

※電気・機械設備は入札残である B/A ≒ 102.05%



深川 高志

次期市長選挙に出馬の
意向は

市長
4期目に向けて
再度チャレンジしていく

深川 初代市長として、
今日まで小城市の活性化
のため、企業誘致、まち
なか環境整備及び子育て
しやすいまち、安心して
暮らせるまちづくりを基
本方針として、さまざま
な施策に着手された。し
かし、まだまだ小城市と
しての課題も残ってい
る。29年3月の次期市長
選挙に出馬されるのか。

市長 課題も山積をして
いる。運動公園跡地の利
活用についても、私が旧
町時代に判断したこと
であり、責任を持って考
えていくべきと思ってい
る。また、アイルの資源
磨きも本年度基本計画が
示されて、計画に沿った

事業規模、予算規模を出
さなくてはと思ってい
る。これはアイルだけ
なく、小城市全体の地
創生に資するプロジェ
クトと思う。その他にも

題がある。この問題解決
に向けて、再度市民の負
託をいただければ、4期
目にむけてチャレンジす
る。

牛津拠点地
区の整備、
スマートイ
ンターチェ
ンジ整備、
小城市、多
共同で計画
しているク
リーンセン
ター建設さ
らに自治体
病院の方向
性を決める
新改革プラ
ンの策定な
ど多くの課



▲4回目の市長選挙を迎える市庁舎

議会改革特別委員会報告

議員定数等の調査結果を議長に報告

議会改革については、26年4月
に議会改革検討委員会を立ち上げ
てこれまで様々な改革を行ってき
た。残す検討課題が議員定数と
なった時点で28年9月、議会改革
特別委員会（委員長 北島文孝議
員）を設置し、議員定数と議員報
酬等について協議を行い、次のよ
うな結果を12月9日議長に報告し
た。



▲特別委員会（12人）での審議

《議員定数について》

県内他市議会及び九州管内の類
似団体等を参考に協議した結果、
次期一般選挙より議員定数を現在
より2人減の20人とする。

《議員報酬について》

議員報酬は18年3月の特別報酬
審議会の答申の額から減額支給し
ているので、近隣類似団体の議員
報酬の推移を参考に小城市特別報
酬等審議会に諮問を申し出る。

《政務活動費について》

制度の必要性については十分認
識しているが、昨今の社会情勢を
鑑み、今後の検討課題とする。

《費用弁償について》

職務を遂行する上での費用を弁
償するものであり、現行どおり支
給する。



▲議長への報告

総務常任委員会 視察研修報告

(期間) 10月31日

11月2日

(目的及び視察地)

●大江戸清掃隊について

(東京都台東区)

●政策研究所について

(埼玉県戸田市)

「大江戸清掃隊」事業は、地域で清掃活動を行う団体・個人を大江戸清掃隊として登録し、その活動を支援する事業。自治会、企業、商店街等と連携し、地域における定期的な自主清掃活動を支援することにより、まちの美化を図るとともに環境美化意識の広がりや地域経済の活性化につなげることを目的としている。平成27年度末の登録団体数301団体、4,220人で毎年10団体の増加を目指している。

戸田市政策研究所は、「地方分権一活法」の施行を契機に、自治体は自身の責任と判断で進むべき方向を決定し、自立した自治体経営を行う必要が発生したこと、自治体間競争により住む人から選ばれるための自治体になるためには、市全体の政策形成力の向上が不可欠な要素になるためであることから設置された、自治体シンクタンクである。

まず、プロジェクトチーム。これは、研究目的に対する調査、分析、結論付けまでを実施し、テーマに対する研究成果を出す。次にワーキングチーム。これは、研究目的に対する基礎的、代表的な調査研究を実施する。ここで特筆するの



▲戸田市で政策研究所について学ぶ

は、2つのチーム共若い職員で構成され、その職員の為の政策形成能力の確立と向上のために「戸田ゼミ」が開催されている。また、職員を大学の講師として講義をさせたり、人材育成に力を入れられていると感じた。

文教厚生常任委員会 視察研修報告

(期間) 10月26日

28日

(目的及び視察地)

●認知症対応型カフェ事業について

(京都市長岡京市)

●ことばと読書を大切に

する教育について

(兵庫県伊丹市)

長岡京市における認知症対応型カフェ事業は、医療機関型(オレンジカフェ)、サロン型(オレンジスペース)、出前型(オレンジバスケット)の3つの型があり、特に医療機関型であるオレンジカフェについては非常に特色があった。それは、市内には2つの精神系病院があつてその院内に誰もが利用できるカフェ(喫茶店)があり、

そのカフェにおいてこの事業がなされていた。伊丹市では、ことばと読書を大切にしている教育について視察した。具体的な取り組みとして「ことば科」の実施がなされていた。平成18年4月から国の構造改革特別区域の指定を受け、小学校でことば科がスタートされ、現在は特区は廃止で新たに教育課程特例校として実施されていた。ことば科の授業は3年生から6年生まで週1時間、年間35時間が設定されていた。指導については、平成26年度以降担任の先生で、伊丹市独自に「読む・書く・話す・聞く」が身に付くようなカリキュラムの編成や教材の作成がなされていた。



▲伊丹市立総合教育センター

(期間) 10月31日

11月2日

(目的及び視察地)

●定住促進事業について

(兵庫県篠山市)

●農業の6次産業化について

(滋賀県守山市)

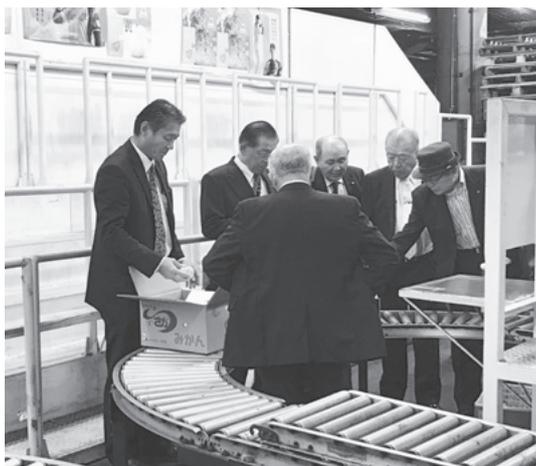
●青果市場の視察

(大阪府中央卸売市場)

1日目は定住促進事業について、篠山市に研修した。人口は平成12年にピークに平成17年減少に転じた。市民が一体と



▲農業の6次産業化についての研修



▲大阪青果市場の視察

なって「ふるさと篠山に住もう帰ろう運動」に取り組まれ、定住支援、遠距離通学・通勤支援、特に子育て支援も充実している。

2日目は守山市の農業の6次産業化事業について研修、「環境保全型農業の推進」「6次産業化の推進」を有機的に結びつける中、食による地域農業の活性化の認識のもと、平成25年、守山市・おうみ富士農協・立命館大学・守山商工会議所が

3日目、大阪府中央卸売市場を見学。懇談の中で樹園地の荒廃を心配されていたが、食べて感動を与える果実であったほしいと表現され、この言葉が印象に残った研修であった。

(期間) 11月9日～11日

(目的及び視察地)

●請願、陳情、議員提案の条例について

(埼玉県川口市)

●議会のペーパーレス化について

(東京都江東区)

川口市議会では、請願、陳情及び議員提案条例等についての説明を受けた。請願については、所管の委員会に付託、審議し、請願書の提出期限は各定例会開会日の7日前までとされている。尚、所管の委員会での趣旨説明は紹介議員が行い、議長と所管の委員長はできないとのことである。

陳情については議長から全議員に陳情書の写しを配布し、議会運営委員会を取り扱いについて協議される。尚、川口市議会における議会運営委員会の委員構成については、3名以上の会派から

の委員13名で構成されている。

また、議員提案条例については、条例素案を作成し、各会派の代表者で協議し、担当部署の意見も参考にしながら進められている。最近では、平成22年に中小企業振興条例、24年に歯科口腔保健の推進に関する条例、28年に文化芸術推進条例が議員提案により制定された。

江東区議会では、議会のペーパーレス化についての説明を受けた。

議員全員にタブレット端末を貸与し、データ化された資料を閲覧することにより、議会に配布する紙の購入費や印刷費の縮小や、事務作業の効率化が図られているとのことである。

尚、タブレット端末の使用に関する申し合わせ事項を作り、ルールを決められている。

視察を受けて、議会のペーパーレス化については、経費削減や効率化に繋がるが、全ての議会資料が一つのタブレット端末に入っていることから、取り扱いに対する問題が生じることも懸念される。



▲議会のペーパーレス化についての研修

平成28年
小城市へ行政視察受入一覧

視察日	委員会	視察来庁	視察内容
平成28年 2月2日	会派 新風とよあけ	愛知県 豊明市	災害時におけるタイムラインについて
平成28年 2月4日	会派 公明党	山口県 防府市	中心市街地活性化事業について
平成28年 5月10日	総務常任委員会	福島県 南相馬市	ふるさと応援寄附金の取り組みについて
平成28年 6月28日	まちづくり推進構想 対策特別委員会	佐賀県 鹿島市	小城市まちなか市民交流プラザ「ゆめぷらつと小城」について
平成28年 10月12日	教育未来委員会	千葉県 千葉市	城創伝心の取り組みについて 桜城館、土生遺跡、千葉氏ゆかりの施設（現地視察）

議員活動あれこれ

第12回
小城市青少年少女の声
大会
(11月19日)



▲アトラクションの発表 田中結さん



第7回福祉大会
福ふくまつり
(11月20日)



消防団出初式
(1月8日)

お知らせ

第1回定例会(予定)のお知らせ

2月22日(水)	定例会<<開会>>
27日(月)	一般質問
28日(火)	一般質問
3月1日(水)	一般質問
2日(木)	一般質問
3日(金)	議案質疑
6日(月)	議案質疑
7日(火)	常任委員会
8日(水)	常任委員会
9日(木)	常任委員会
14日(火)	討論・採決<<閉会>>

(※日程など都合により変更になる場合もあります。)

表紙の紹介

閑室元倍像

佐賀県重要文化財・三岳寺蔵・平成3年3月30日指定

元倍像は、元倍が没した慶長17年(1612)の作と推定され、寸法はタテ125・6、ヨコ54・4cmの絹本着色の頂相(禅僧の肖像画)。三岳寺の寺伝によると示寂する直前に制作された三幅のうちの一。残る二幅のうち一幅は京都円光寺に現存し、もう一幅の所在は不明。医王山三岳寺は鍋島直茂・勝茂父子が元倍を中興開山として建てた寺で、もともと永仁年間(1293)12

(98)は天台宗に属し、三津寺と称されていた。閑室元倍(1548)1612)は小城町晴気円光寺の出身で、栃木県足利学校の第9代席主(校長)を務め、家康と親交を深め慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦では、出陣の日取りや吉凶を占筮(占う)したと伝えられ、家康のブレーンとして幕政にも参画、金地院崇伝らとともに寺社の訴訟や外交文書の作成に当たり、呂宋国(今のフィリピン)太守宛ての返書を清書したことも知られる。また伏見版と呼ばれる木活字による書籍の出版事業にも取り組んだ学僧としても有名。学校とも呼ばれ尊敬された。

編集後記

4年ぶりに広報編集委員に復帰した。驚くほど紙文化に大きな変化が表れている。

若者の活字離れ。本を読まない。新聞を読まない。パソコン・スマートフォン全盛で、辞書を引くこともない。

だが、どんなに時代が変わろうとも紙による文字文化がなくなることはない。

指をなめ、ページをめくり本を読む。読み終えた時の達成感、紙文化の醍醐味だ。

だが、紙文化は読まれないと意味はない。親しまれ、読みやすい紙面づくりへない知恵を借り、冷や汗で作る。究極の紙面づくりは、ほおずりしてもらえる紙面づくり。猫や犬のほおずりは毛がつくけど、心地よい。(諸)

委員長	永 測	和 正
副委員長	松 並	陽 一
委員	富 永	正 樹
	諸 泉	定 次
	松 尾	義 幸
	堤 克彦	